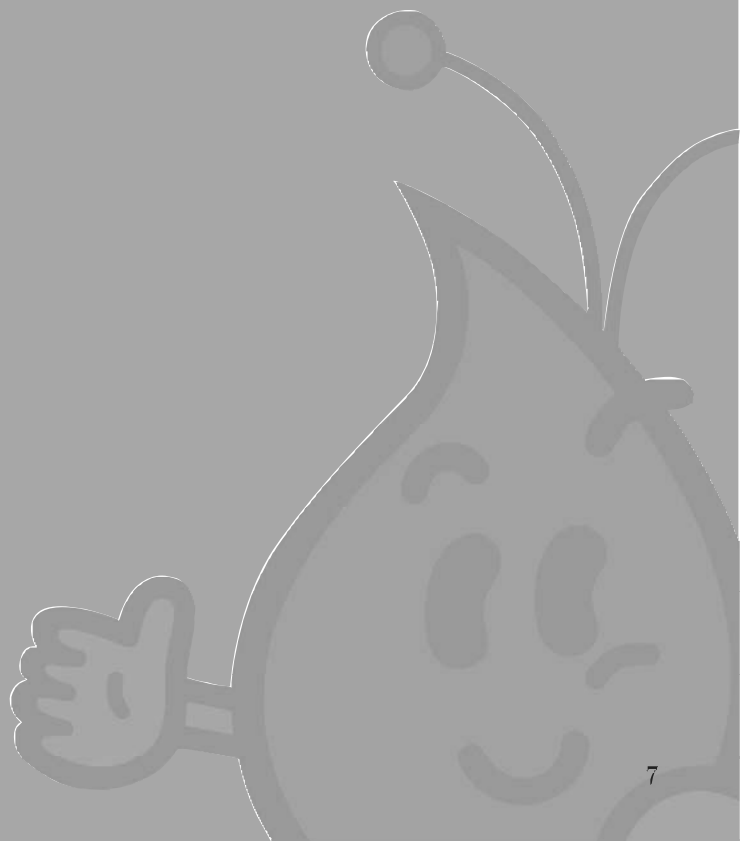




「札幌市下水道ビジョン2020」策定の目的と位置づけ



1. 「札幌市下水道ビジョン2020」の策定の目的

都市は、一定の土地に商業やビジネス、医療、そして多様な居住と、さまざまな機能が集まり成り立っています。しかし、都市活動から生ずる汚水は大量のものとなり、放置すると都市の環境が著しく悪化します。また、都市に降る雨も、速やかに排除されなければ、安全な都市活動に大きな支障を及ぼします。

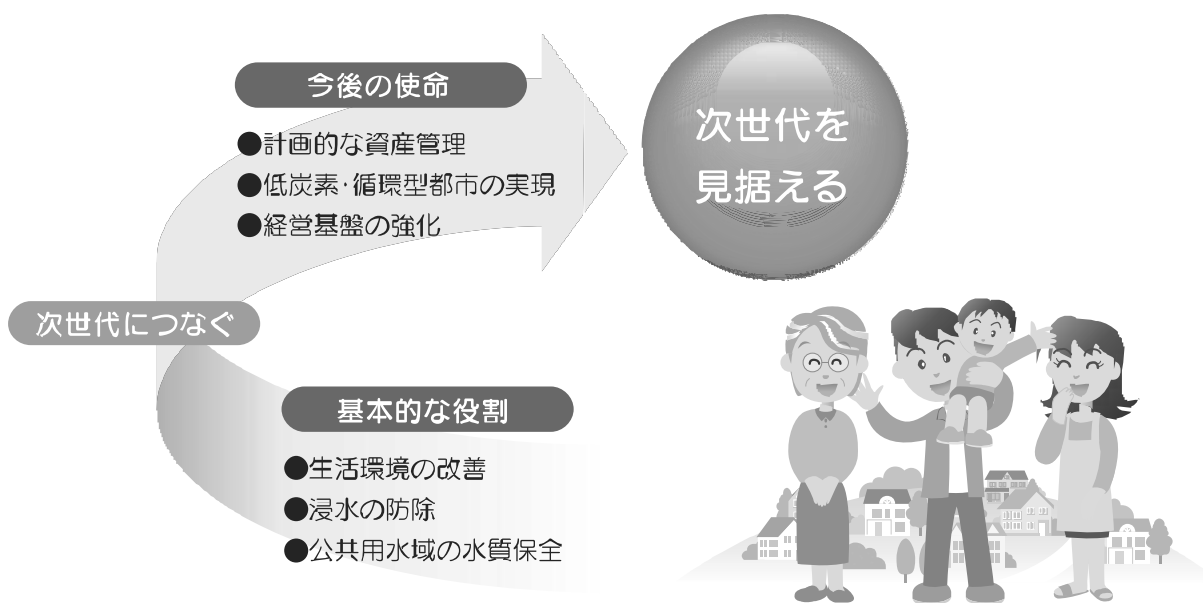
下水道は、汚水と雨水、あわせて下水を下水道管路によって速やかに都市から排除し、汚水については環境が受け入れられるよう、処理施設できれいにして自然の水循環に戻す、都市にとっても環境にとっても大切な施設です。

札幌市の下水道は、市民や企業、行政が一体となって、人口や都市規模が急拡大した時期にも着実な整備を進めてきた結果、現在では高い水準で市街地を網羅しており、市民の豊かな暮らしを実現しています。今後も、この暮らしを守り続けるためには、この下水道を適切に維持管理するとともに、計画的に更新していかなくてはなりません。

さらに、近年においては、全国各地で頻発している局所的集中豪雨や大規模地震への対応、進行する地球温暖化問題への対応など、下水道が対応すべき新たな課題が生じています。

一方、下水道事業の経営状況は、景気の低迷や少子高齢社会、人口の減少などの影響により、中長期的に一層厳しくなると見込まれており、今後は、事業を選択、集中して実施していくことが重要となっています。

このようなことから、下水道に求められる本来の役割を果たし、そして、次世代に良好な生活環境や社会基盤施設を引き継ぐため、平成23年(2011年)から平成32年(2020年)までの10年間で下水道事業が取り組むべき施策の方向性を示すことを目的に、「札幌市下水道ビジョン2020」を策定します。



2. 「札幌市下水道ビジョン2020」の位置づけ

札幌市では、平成15年3月に、21世紀における札幌市の下水道が目指すべき方向性を示した「札幌市下水道マスタープラン」を策定しました。

マスタープランは、札幌市の下水道事業の長期指針として位置づけられ、札幌市の下水道事業は、この指針に基づき、整備・管理・財政のそれぞれについて中長期的な計画を策定し、事業運営を行うこととしています。

一方、国土交通省と(社)日本下水道協会が共同で設置した「下水道政策研究委員会」では、急激な人口減少や経済成長の鈍化に伴う下水道使用料収入の減少、急速に増大した下水道施設の維持管理や改築に要する費用の増大、また、地球温暖化を始めとする地球規模での環境問題を踏まえ、下水道政策の基本コンセプトとなる「下水道ビジョン2100(平成17年9月)」、概ね10年程度の下水道施策のあり方を示した「下水道中期ビジョン(平成19年6月)」を策定しました。

また、平成21年3月には、北海道開発局・北海道・札幌市が共同で、「北海道地方下水道ビジョン」を策定しました。

「札幌市下水道ビジョン2020」は、「札幌市下水道マスタープラン」で掲げた理念に基づき、近年の社会情勢の変化や国及び北海道が策定した下水道ビジョンの方向性に合わせて策定した、札幌市の下水道事業の中期的なビジョンとして位置づけられます。

なお、今後、本ビジョンに定めた施策を具体的に実行に移すための5年間の行動計画(アクションプログラム)として、「札幌市下水道事業中期経営プラン2015」(仮称)を策定します。

